



**のあそびlabo**

荒尾駅前が賑わう「のあそびマルシェ」▼

▲1階のカフェは個展やワークショップなどにも活用できます。

# 地域を支える輝く人たちの

ここ荒尾には、さまざまな想いを抱き、地域を支えようと活動している人たちがいます。「広報あらお 特別号」では、目標に向かって取り組む「輝く人たち」をご紹介します。

## “のあそび”がテーマの地域の交流拠点づくり



荒尾駅前ホテル・カフェ・コワーキングスペースなどを備えた「のあそびロード」のビルをDIYでリノベーションしたのは市内でクリニックを営む医師の中村さんが登山仲間と設立した「のあそびlabo」です。中村さんは荒尾で長年暮らすうちに「医療以外にも人材育成やまちづくりで地域に貢献できないか」と考えるようになり、アウトドア経験を活かした地域の交流拠点作りを始めました。活動はビル内にとどまらず、荒尾駅前などでさまざまなイベントを開催しています。「ビルが完成しても、まだまだ変化し続けます。いろんな人に参加してもらい、活動を広げていきたいです。荒尾駅前を活性化して、荒尾をもっと元気なまちにしましょう」と中村さんは力を込めます。

グランピングやバーベキューも楽しめる屋上♪

Arado Star

地域活性化を目指す人たち



+Ba プラスバ

## 楽しめる場所を作りたい 自分たちで作上げた 笑顔が集まるプラスの場

八幡小学校前交差点近くのコンビニ跡地でキッチンカーなどが集まり、フードや雑貨を販売する「+Ba」。主に土日祝日に開かれ、ピザ・クレープ・たこ焼きなど、集まるキッチンカーや出店数は毎週さまざまです。普段、自動車整備などを行っている代表の吉丸さんは友人にキッチンカーの製作を頼まれ、調べるうちに自分もハマってしまいました。以前は整備工場の一角をキッチンカーでの販売スペースにしましたが、安全性も考えて現在の場所へ移り、+Baとして新たなスタートを切りました。「とにかくお客さんに楽しんでもらいたいのので、飲食や雑貨・癒しスペースなど、今週はどんなお店が集まっているかな？」とワクワクしてもらえる空間を作っています。と、みんなの笑顔が集まる場所づくりに奮闘する吉丸さん。素敵な場所や魅力的な人がたくさんいる荒尾をみんなにもっと知ってもらいたいと、今後は出店だけでなく、イベントや行事にも場所を提供したいと考えているそうです。



## 荒尾飲食店組合

## ご当地ハイボールで飲食店の元気を発信!



荒尾に名物ハイボール誕生!

ジョッキに注がれた黒いドリンクに、ぽつかりと浮かぶ黄色いレモン。思わず惹きつけられるインパクトあるドリンクは、荒尾飲食店組合が開発した、ご当地ハイボール『万田』。コロナ禍の沈んだムードを吹き飛ばすようなメニューで、お客さんや飲食店の仲間たちを元気づけたという想いから生まれ、組合加盟店舗の一部で提供されています。開発したのは、組合長の源嶋さんと、組合長を長年務めていた初代の名物組合長の谷川さん。石炭をイメージした黒色のハイボールに、黄色いレモンで、炭鉱から見る



組合長 源嶋博史さん

上げるお月さまをイメージ。「せっかくなら世界遺産の『万田坑』にちなんだものを作りたいと思って、フードはジャンルがあるけど、ドリンクなら同じ味を提供できるでしょ？」と笑顔で話す源嶋さん。現在、組合では30代〜80代までの幅広い世代が活躍中。定例会での近況報告から、悩みを打ち明ける相談相手として、互いに支え合い、地域に愛される店を守り、飲食を通じた地域活性化を目指し、日々奮闘しています。

